

部落差別を知り、考える

豊岡市立但東中学校 三年 山本 真衣

先日、授業で部落差別について学びました。私は、その時初めて部落差別というものを知りました。なぜ、その土地で生まれただけで差別を受けなければならないのだろうと疑問に思ったと同時に、今でもそんな概念に囚われている人がいると知り、とても驚きました。

私は、日航機墜落事故で亡くなられた田中愛子さんについて学習しました。この悲惨な事故から十九年後の二〇〇四年に、愛子さんのご遺族の元に一通の手紙が送りつけられたそうです。それは、

「日航機墜落事故の原因がやっとなかった。航空機事故は被差別部落の愛子が乗っていたため起こった。穢れをもった愛子が乗っていたため起こった。」

というものでした。私は、こんなところまで部落差別があることに驚いたし、絶対に許せないことだと思いました。

しかし、この手紙を見た愛子さんのご遺族は、

「この人自身に罪はありません。差別の歴史がきちんと教えられなかったのです。ゆがんだ偏見だけを植え付けられた、いわば犠牲者なのです。」

と言われたそうです。この言葉に、私ははっとしました。なぜなら、私はこんな手紙を送ってきた人が悪いと思っていました、私が田中さんの立場だったら、送ってきた人に怒りや憎しみを覚えると思うからです。しかし、田中さんは人ではなく、差別そのものや、差別を残している社会に怒りを感じているのかなと思いました。だからこそ、差別をする人も正しい知識を得ることで、変わっていくことができると思ったのだと思います。私は田中さんの考えに気付いたとき、知らないということは怖いことだなと思いました。

愛子さんは、部落差別に直面しても、自分の生き方に誇りをもって生きようとされていました。また、愛子さんの絶筆の中にある、「今、光っていたい」という言葉に感動しました。人は、つい二〇年、三〇年先のことを考えてしまうけど、今生きているそのときを大切にしたいという考え方にとても共感したからです。私も、限りある命の中のかけがえのない時を大切に生きたいと思いました。

私は、愛子さんについて学習して、部落差別が今でも根強く残っていることや、それをなくそうと努力されている方がいることを知りました。そして、部落差別は自分には直接関係ないと思ってしまっている部分が

ありました。でも、それも深刻な差別問題なのかなと思いました。部落差別は、被差別部落出身の人や、その周りの人だけでなく、日本国民全員が関係する問題なのだと思います。なぜなら、差別をしている人に正しい知識を伝えることが必要だからです。だからこそ、私のように自分には関係ないと思っている人も、自分にも関係のある問題として捉えるべきだと考えました。

人を出身地で判断するのは絶対にあってはならないことだし、許されないことです。私は、差別をなくすために、もつと差別や人権について学び、理解を深めていく必要があると思いました。そして、間違った認識をなくし、正しい知識を広めることが大切だと思いました。私の周りでは、自分たちで人権について考え、標語やポスターを書いたり、授業で考えたりしています。これからこのような活動に積極的に取り組み、人権に対する意識を高めていきたいです。差別をなくし、誰もが笑顔で生きられる平等な社会をつくっていくためには、「差別があることを認識し、向き合う」ことがとても重要です。遠い存在として考えるのではなく、自分のこととして捉えることが、差別をなくす第一歩だと思います。私も、思いやりの心を忘れず、自分にできることから行動に移したいと思います。